

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2013年 8月

ISO/TC 61/SC 5(物理・化学的性質)分野における日本の規格開発の状況

ISO/TC61/SC5は、プラスチックの物理・化学的性質の試験方法に関する規格の制定・改正を担当し、現在までに、84の規格が発行されている。TC61/SC5の国際議長はスイスが、国際幹事はドイツ(DIN)が担当している。SC5下で活動中の作業部会(WG)を表.1に示す。

表.1 TC61/SC5のWG

WG	幹事国	名称
8	ドイツ	熱的性質
9	イギリス	レオロジー
11	オランダ	分析手法
22	日本	生分解性プラスチック
23	アメリカ	バイオベースプラスチック
24	インド	環境ガイド

*SC5の幹事国：ドイツ

SC5の規格開発に関しては、日本の貢献は大きい。来る9月9日～9月13日に中国の蘇州にて第62回TC61国際会議(年次会議)が開催される。日本からは、多数の委員が出席する予定である。日本提案の規格開発を中心に、以下にWG別(WG24を除く)にこの一年の進捗状況及び今後の取り進めについて報告する。

1. 熱的性質 (WG 8)

日本提案 ISO 11358-3 (TG-第3部：小沢-フリードマンプロットによる活性化エネルギーの求め方と反応速度解析)：FDIS 投票用のドラフトを提出したところ、DIS に比べてかなり内容に変更があるため、DIS.2 投票となり、現在投票中である。9月の蘇州会議で投票結果について審議される。

日本提案 ISO 22007-6 (熱伝導率・熱拡散率測定法-第6部：断熱材)：現在、DIS 投票を行っており、蘇州会議にて投票結果が審議され、次段階である FDIS に進むことが決議されると予想される。

今後、WG 8 関連では、温度変調 DSC を用いた温度や熱容量の測定方法に関する規格をいくつか提案する予定である。

2. レオロジー (WG 9)

レオメータによる溶融粘度の測定方法に関する韓国からの下記 2 件の新規提案が認められ、現在 CD 投票中である。

ISO/CD 18247 (スクリュータタイプのレオメータによる溶融ポリマーのせん断粘度測定)

ISO/CD 18247 (スクリュータタイプのレオメータによる溶融ポリマーのせん断粘度測定)

日本はいずれの案件に対しても積極賛成を行い、エキスパートを指名し規格開発に関わっている。

3. 分析手法 (WG 11)

日本提案 ISO 16014-1~5 (サイズ排除クロマトグラフィーによる平均分子量及び分子量分布の求め方—第 1 部~5 部): 第 1 部~4 部は改正であり, 第 5 部は光散乱による分子量測定を組み合わせた新規制定案件である。いずれも昨年 IS 発行となった。本年度は, これら IS を JIS 化する予定である。

今後, WG 9 関連では, MALDI-TOF-MS による, ポリマー分子量及び分布の測定に関する新規提案を行う予定である。

4. 生分解性プラスチック (WG 22)

WG22 は 1993 年開設以来, 日本がコンベナーを担当している。

日本提案 ISO 10210 (プラスチック材料の生分解性試験用のサンプル調製方法): FDIS 投票で承認され, 昨年 IS 発行された。

日本提案 ISO 13975 (バイオガス測定による高温スラリー系嫌気生分解速度の求め方): 昨年, IS 発行となり, 本年度は JIS 化を行っている。

5. バイオベースプラスチック (WG 23)

日本提案 ISO 16220-1~3 (生物由来の含有量の求め方—第 1 部~3 部): CD 投票を行ったところ, いくつかの主要の国の反対がありコンセンサスが得られなかった。昨年の TC61 会議にて, 構成を若干変更して全 4 部として, 再度 NWIP 投票をやり直すこととなり, 現在投票中である。9 月の蘇州会議で投票結果及び今後の取り進めが議論されると思われる。

6. その他: 光学特性 (WG1)

光学特性 (WG1)は, 現在休眠中であるが, 日本からは次の 2 件 (JIS 規格の ISO 化) の規格開発を進めている。これらは, WG 11 にて審議している。

ISO 177221 (像鮮明度の求め方)

ISO 177223 (黄色度及び黄変度の求め方)

両者とも昨年の TC61 会議にて, DIS 投票に進むことが決議された。ISO 17221 については, 既に DIS 投票が終了し, 賛成多数で承認された。蘇州会議にて投票結果が審議され, 両者とも FDIS に進むことが決議される見込みである。

以上